

課題番号5

基本方針：Ⅱ		課題名：活力のある大和野菜の産地づくり	
対象：田原本町味間いも生産者の会 JAならけん結崎ネブカ生産部会		計画期間：H30～R2	
		事務所名：中部農林振興事務所	
普及指導事項	活動内容	活動成果（計画当初→R1年度末）	
①田原本町産「味間いも」ブランド推進	生育巡回、販売対策検討会 増殖実証圃設置、種芋供給 検討 増収技術実証、現地巡回	味間いも生産者数 12戸 → 23戸 選果取組生産者数 0戸 → 14戸 味間いも栽培面積 57a → 84a 新規販路 0カ所 → 3カ所	
②結崎ネブカの安定生産	秀品出荷指導、市場調査 干苗実証圃設置 防除講習会、現地巡回 栽培講習会	結崎ネブカ出荷返却率 3.2% → 0%	

総合評価(コメント)

A:3名

- 産地振興のため露地栽培でも取り組める技術の確立を期待します。
- 大和野菜全体を発展させる為にも、両品目のこれまで以上の産地としての確立が期待される。本対策で残された課題への継続した活動をお願いしたい。特に、異常気象への対応を検討することが必要と考える。
- 天候に左右された結果は残念ですが、今後も頑張って下さい。

B:3名

- 個々の特産品を地域としてもっと結びつけ大胆な加工品などブランディングイメージを明確化してほしい。外部からファシリテーターを呼ぶのも可。
- 味間いものブランド推進は不十分。結崎ネブカを生産安定できなければ、店頭に並ばず、消費者の手に届かない。まだまだ課題は多いが、奈良のおいしい野菜が全国に広まることを期待している。これからも頑張ってください。
- 品質向上とブランド化への戦略作りを期待。将来の「儲かる種」を見据えて、品種の登録等権利保護の対策も必要かと感じた。

普及指導計画への反映状況等

田原本町産「味間いも」ブランド推進

- 既存の販売先や新たに獲得した販路の販売状況について、関係機関と連携して、情報収集し、作付面積目標等を生産者へ提供することで、栽培面積の維持・増加を図る。味間いもの品質向上を行うため、優良種芋の増殖圃の設置を継続し、種芋増殖に係る関係機関の役割を明確にし、生産体制を整備する。
- 来年度以降、販売額を成果指標に追加し、生産面積の拡大や販路拡大対策を行っていく。また、ふるさと納税の返礼品として出荷する際、販売額増加に向けて町とPR方策について、検討する。

結崎ネブカの安定生産

- 天候の影響を受けやすい結崎ネブカの出荷量低下を防ぐため、排水対策や灌水の実施について指導を徹底するとともに、実証圃を設置し、異常気象に適した栽培方法の検討を行う。また、規格外品の活用方法についても検討を行う。
- 品質向上とブランド化のために、出荷返却の多い生産者や新規生産者を重点的に巡回し、フォローアップに努める。